



横浜市立大曾根小学校

学校だより



令和4年6月30日

TEL 542-1785

FAX 541-0949

人の成長につながる望ましい『経験』や『体験』

校長 宮本 雅司

夏の訪れを感じる季節となりました。例年になく早い梅雨明けとなり、暑い日が続いております。7月は、熱中症に気を付けながらの生活となりそうです。学校でも、家庭や地域と同様に、子どもたちの体調管理に留意しながら教育活動を進めていきたいと思っております。

5月末から6月にかけて、5年生は富士山・西湖へ、6年生は日光に宿泊体験学習や修学旅行に行ってきました。「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、人間関係などの集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと〔学習指導要領より〕」を主なねらいとしています。遠足等の校外学習も同様です。小学校では、幼稚園や保育園での経験や中学校への接続を意識しながら、より望ましい成長につながるように様々な学校教育活動に取り組みますが、この宿泊体験でも、大曾根小の子どもたちの望ましい姿を数多く見ることができて、とても頼もしく思えました。6年生が東照宮について話を伺った「だいや体験館」では、館の方から、「たくさんの6年生がここを訪れますが、この子たちは話を聞く姿勢や学ぼうとする意欲がとてもよいですね。」というお褒めの言葉もいただきました。幾人かの1～4年生から、「お兄さんお姉さんが優しいです」という声を聞いていましたが、大曾根小学校の素敵な子どもたちの姿が持続していくように、家庭や地域と連携して教育活動を進めていきたいと感じます。



今、校庭脇や花壇には、アサガオや野菜、稲など、子どもたちが学習で栽培している植物が見られます。教室では、ヤゴをはじめ幼虫を大切に飼っている姿も見られました。あっという間に大きく生長・成長していく動植物を見ていると、小学校1年生から6年生というわずかな期間に大きく成長していく小学生の成長の姿とも重なるような気がしました。そこには、自ら伸びよう成長しようとする姿がある一方で、水をあげたり太陽の日を浴びさせたり、また餌をあげたりといった世話があります。子どもたちのより望ましい成長につながる大人の望ましい支援はとても大切なのだらうと気付かされます。

さて、夏の暑さが増す7月8月を迎えます。子どもたちの健康や安全に配慮しながら、より望ましい教育の営みを家庭・地域と連携しながら進めていきたいと思っております。



エゾゼミ(日光)